

野菜栽培Ⅱ

| | | | |
|-----|-------|-------|---|
| 講師名 | 小田島 裕 | 実務経験等 | 農業改良普及センターでの普及指導員としての経験を活かし、岩手県における主要品目の基本的な生理・生態から栽培技術への応用を理解するための講義を担当している。 |
|-----|-------|-------|---|

| 科目区分 | 学科・経営科 | 必修・選択 (必修、自由)区分 | 履修 学年 | 開講 学期 | 標準 時間 | 単位数 |
|-------------|---|--------------------|----------|----------|----------|-----|
| 農産園芸学科・専攻科目 | 農産園芸・野菜 | 必修 | 2 | 通年 | 165 | 11 |
| 使用教科書・副教材 | 2019年度岩手県野菜栽培技術指針(岩手県)、令和2年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針(岩手県植物防疫協会)、防除ハンドブック菜園の病害虫(全国農村教育協会)、楽しく作ろういわての恵み(岩手県農業改良普及会)、図解でよくわかる植物工場のきほん(誠文堂新光社)等 | | | | | |
| 授業の目的 | 岩手県における主要品目の基本的な生理・生態から栽培技術への応用を理解する。また、事例研究を通じて、最新技術をはじめ、経営体や産地の取り組みと課題等について学ぶ。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | 岩手県における主要品目の生理・生態に基いた基本的栽培技術を理解する。また、事例研究を通じて、最新技術をはじめ、経営体や産地の取り組みと課題等の実状を把握する。 | | | | | |

| 月 | 学習項目 | 学 習 事 項 | 時間 | 授業 形式 | 備 考 (提出物等) |
|------|------------------|--|-----|----------|---------------|
| 4月 | 授業説明 | 授業の概要、事前学習について理解する。(4/17) | 2 | 講義 | |
| 4～7月 | 卒業研究品目の特徴 | 各自の卒業研究対象品目について、生理的特徴、栽培管理、作業労力、流通・経営などについて調査・整理し、理解を深めた上で、パワーポイント資料を作成し、発表する。 | 24 | 講義 演習 | PP発表 |
| 5月 | 野菜の育苗施設 | 果菜類苗の供給体制について学ぶ。(5/15) | 4 | 事例 研究 | レポート |
| | 花北地域の野菜生産とGAP | 花北地域の野菜生産やGAPの取り組みについて学ぶ。(5/22) | 4 | 事例 研究 | レポート |
| 6月 | 農業法人の環境制御技術導入と生産 | 環境制御技術を導入し、果菜類を生産している農業法人について学ぶ。(6/18～19) | 16 | 事例 研究 | レポート |
| 8月 | 福島県の野菜生産 | 福島県における果菜類生産の取り組みについて学ぶ。(8/19) | 8 | 事例 研究 | レポート |
| 8～1月 | 主要野菜品目の特徴 | 卒業研究対象以外の品目について、その特徴や栽培技術などについて理解する。 | 54 | 講義 演習 | |
| 10月 | 県北の野菜生産 | 県北の果菜類・葉菜類生産の取り組みについて学ぶ。(10/2) | 8 | 事例 研究 | レポート |
| 11月 | 首都圏の育種開発 | 首都圏における野菜育種の現状などについて学ぶ。(11/11～13) | 24 | 事例 研究 | レポート |
| 1月 | 野菜栽培のまとめ | これまで学んだ野菜栽培技術に関する基礎知識を確認する。 | 22 | 講義 | |
| 合計 | | | 166 | 時間 | |

成績評価の方式(評価項目、評価の観点、割合等)

提出物の内容、出席状況、受講態度により評価する。

筆記試験: 70%

平常点: 30%(出席状況、受講態度)

履修に当たっての留意点等

授業は教科書、自作プリント、学生のレポート資料により進める。受講に際しては、事前に教科書や参考資料に目を通し、復習を行うこと。

天候や野菜の生育状況により、圃場での実習に変更する場合がある。